

2.25 2つの点電荷 $Q_1 = 250 \mu\text{C}$ と $Q_2 = -300 \mu\text{C}$ がそれぞれ $(5, 0, 0) \text{ m}$ と $(0, 0, -5) \text{ m}$ にある。 Q_2 に働く力を求めよ。

[解] 問題の図を図 2.8 に示します。ここで、問題が Q_2 に働く力なので Q_1 による Q_2 への影響を考えて \mathbf{R}_{12} は図より、

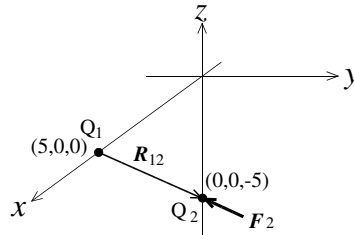


図 2.8 問題 2.25 の図

$$\mathbf{R}_{12} = -5\mathbf{a}_x - 5\mathbf{a}_z$$

となりますから、その単位ベクトルは、

$$\mathbf{a}_{12} = \frac{\mathbf{R}_{12}}{R_{12}} = \frac{-5\mathbf{a}_x - 5\mathbf{a}_z}{\sqrt{5^2 + 5^2}} = \frac{-\mathbf{a}_x - \mathbf{a}_z}{\sqrt{2}}$$

となります。よって、

$$\begin{aligned} \mathbf{F}_2 &= \frac{Q_1 Q_2}{4\pi\epsilon_0 R_{12}^2} \mathbf{a}_{12} = \frac{(250 \times 10^{-6})(-300 \times 10^{-6})}{4\pi(10^{-9}/36\pi)(5\sqrt{2})^2} \mathbf{a}_{12} \\ &= (-13.5) \left(\frac{-\mathbf{a}_x - \mathbf{a}_z}{\sqrt{2}} \right) = (13.5) \left(\frac{\mathbf{a}_x + \mathbf{a}_z}{\sqrt{2}} \right) [\text{N}] \end{aligned}$$

2.26 2つの点電荷 $Q_1 = 30 \mu\text{C}$ と $Q_2 = -100 \mu\text{C}$ がそれぞれ $(2, 0, 5) \text{ m}$ と $(-1, 0, -2) \text{ m}$ にある。 Q_1 に働く力を求めよ。

[解] この場合の図を図 2.9 に示します。問題が Q_1 に働く力なので Q_2 による Q_1 への影響を考えて \mathbf{R}_{21} は図 2.9 より、

$$\mathbf{R}_{21} = 3\mathbf{a}_x + 7\mathbf{a}_z$$

となります。したがって、単位ベクトルは、

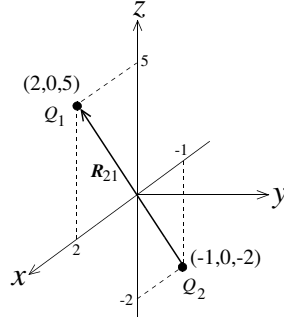


図 2.9 問題 2.26 の図

$$\mathbf{a}_{21} = \frac{\mathbf{R}_{21}}{R_{21}} = \frac{3\mathbf{a}_x + 7\mathbf{a}_z}{\sqrt{3^2 + 7^2}} = \frac{3\mathbf{a}_x + 7\mathbf{a}_z}{\sqrt{58}}$$

となり, Q_1 に働く力 \mathbf{F}_1 は,

$$\begin{aligned} \mathbf{F}_1 &= \frac{Q_1 Q_2}{4\pi\epsilon_0 R_{21}^2} \mathbf{a}_{21} = \frac{(30 \times 10^{-6})(-100 \times 10^{-6})}{4\pi(10^{-9}/36\pi)(\sqrt{58})^2} \mathbf{a}_{21} \\ &= (-0.466) \left(\frac{3\mathbf{a}_x + 7\mathbf{a}_z}{\sqrt{58}} \right) = (0.466) \left(\frac{-3\mathbf{a}_x - 7\mathbf{a}_z}{\sqrt{58}} \right) \text{ [N]} \end{aligned}$$

2.35 一様な密度 ρ_l の, 無限に長くまっすぐな電荷分布によって生じる \mathbf{E} は直角座標でどのように表されるか.

[解] まず, 問題の図を図 2.10 に示しておきます. 円柱座標を用いた値は, 演習問題 2.9 で既に与えられており,

$$\mathbf{E} = \frac{\rho_l}{2\pi\epsilon_0 r} \mathbf{a}_r$$

となっています. これを直角座標として表すために, 図 2.10 を参照し, 原点から点 P までの距離 r を x, y で表せば,

$$r = \sqrt{x^2 + y^2}$$

であり, 単位ベクトル \mathbf{a}_r も

$$\mathbf{a}_r = \frac{x\mathbf{a}_x + y\mathbf{a}_y}{\sqrt{x^2 + y^2}}$$

ですから, これらを円柱座標の式に代入すれば,

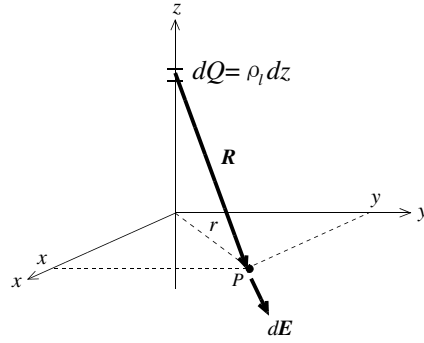


図 2.10 問題 2.35 の図

$$\mathbf{E} = \frac{\rho_l}{2\pi\epsilon_0 r} \mathbf{a}_r = \frac{\rho_l}{2\pi\epsilon_0 \sqrt{x^2 + y^2}} \left(\frac{x\mathbf{a}_x + y\mathbf{a}_y}{\sqrt{x^2 + y^2}} \right) = \frac{\rho_l}{2\pi\epsilon_0} \cdot \frac{x\mathbf{a}_x + y\mathbf{a}_y}{x^2 + y^2}$$

2.42 一様な電荷密度 $\rho_s = (10^{-9}/6\pi) \text{ C/m}^2$ の 2 つの無限シートが $z = -5 \text{ m}$ と $y = -5 \text{ m}$ にある。線電荷が $z = 0, y = 0$ にあるとして、 $(4, 2, 2) \text{ m}$ で同じ値の \mathbf{E} を生じさせるのに必要な、一様な線電荷密度 ρ_l を求めよ。

[解] この問題は 2 つの問題に切り分けることができます。

- (1) 2 つの無限シートにより、点 $(4, 2, 2)$ につくられる電界を求める問題。
- (2) 点 $(4, 2, 2)$ につくられる電界が (1) と同じになる線電荷密度を求める問題。

まず、2 つの無限シートが $z = -5 \text{ m}$ と $y = -5 \text{ m}$ にあるときの図を図 2.11 に示します。無限に広がる面電荷による電界は、

$$\mathbf{E} = \frac{\rho_s}{2\epsilon_0} \mathbf{a}_n$$

であり、面からの距離には無関係という性質があります。ここで、 $z = -5$ のシートによる電界を \mathbf{E}_z 、 $y = -5$ のシートによる電界を \mathbf{E}_y と表すことにします。それぞれは、

$$\mathbf{E}_z = \frac{\rho_s}{2\epsilon_0} \mathbf{a}_z \quad \mathbf{E}_y = \frac{\rho_s}{2\epsilon_0} \mathbf{a}_y$$

となります。面電荷密度は、 $\rho_s = (10^{-9}/6\pi) \text{ C/m}^2$ ですから電界の強さは、

$$|\mathbf{E}| = \frac{\rho_s}{2\epsilon_0} = \frac{10^{-9}/6\pi}{2(10^{-9}/36\pi)} = 3$$

となります。点 $(4, 2, 2)$ に 2 つの無限シートによりつくられる電界 \mathbf{E} は、

$$\mathbf{E} = \mathbf{E}_z + \mathbf{E}_y = 3\mathbf{a}_z + 3\mathbf{a}_y = 3\sqrt{2} \left(\frac{\mathbf{a}_y + \mathbf{a}_z}{\sqrt{2}} \right)$$

と求められます。すなわち，電界の強さは $3\sqrt{2}$ となっていることに注意してください。

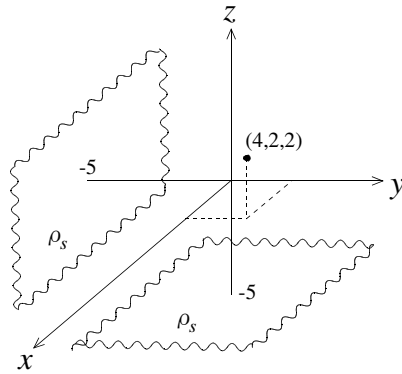


図 2.11 問題 2.42 の面電荷

次に，線電荷が $z = 0$, $y = 0$ にあるとは， x 軸上に線電荷が分布しているということです。ですから図 2.12 のようになっています。

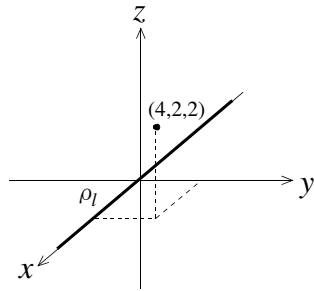


図 2.12 問題 2.42 の線電荷

線電荷によってつくられる電界 \mathbf{E} は，

$$\mathbf{E} = \frac{\rho_l}{2\pi\epsilon_0 r} \mathbf{a}_r$$

ですから，図 2.12 より，線電荷と点 $(4, 2, 2)$ の垂直方向の距離は， $r = 2\sqrt{2}$ です。よって，

$$\mathbf{E} = \frac{\rho_l}{2\pi\epsilon_0 2\sqrt{2}} \left(\frac{\mathbf{a}_y + \mathbf{a}_z}{\sqrt{2}} \right)$$

となりますから，上式と (1) の結果が等しくなるとの条件より，

$$\frac{\rho_l}{2\pi\epsilon_0 2\sqrt{2}} \left(\frac{\mathbf{a}_y + \mathbf{a}_z}{\sqrt{2}} \right) = 3\sqrt{2} \left(\frac{\mathbf{a}_y + \mathbf{a}_z}{\sqrt{2}} \right)$$

が成り立ち，未知数である線電荷密度 ρ_l は，

$$\rho_l = 4\pi \left(\frac{10^{-9}}{36\pi} \right) \sqrt{2} \times 3\sqrt{2} = 0.667 \times 10^{-9} = 0.667 [\text{nC/m}]$$

2.43 次のような 2 つの様な電荷分布がある： $y = 2 \text{ m}$ に置かれた様な電荷密度 $\rho_s = -50 \text{ nC/m}^2$ のシート，および， $z = 2 \text{ m}$ と $y = -1 \text{ m}$ に置かれた $\rho_l = 0.2 \mu\text{C/m}$ の様な線電荷．この領域のどの点で \mathbf{E} は 0 となるか．

[解] 面電荷による電界 \mathbf{E}_s と線電荷による電界 \mathbf{E}_l は，それぞれ，

$$\mathbf{E}_s = \frac{\rho_s}{2\epsilon_0} \mathbf{a}_n, \quad \mathbf{E}_l = \frac{\rho_l}{2\pi\epsilon_0 r} \mathbf{a}_r$$

で求められます． $\rho_s = -50 \text{ nC/m}^2$ なので図 2.13 に示したように $y < 2$ の領域では， \mathbf{E}_s は $+y$ 方向となります．これに対し， $\rho_l = 0.2 \mu\text{C/m}$ による電界 \mathbf{E}_l は，図のように $y = -1$ の左右で逆方向になります．したがって， \mathbf{E} が 0 となる点は $y < -1$ にあることは明らかで，その点では $\mathbf{E}_l = \mathbf{E}_s$ となります．

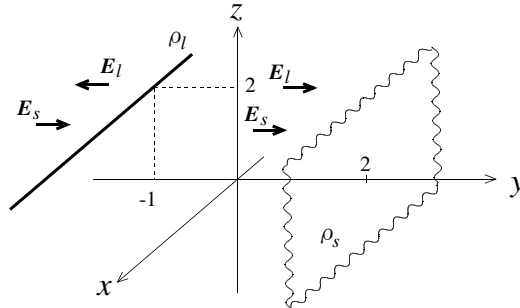


図 2.13 問題 2.43 の図

それぞれの電界の具体的な値は，

$$\mathbf{E}_s = \frac{-50 \times 10^{-9}}{2(10^{-9}/36\pi)} \mathbf{a}_y = -900\pi \mathbf{a}_y$$

24 第2章 クーロンの法則および電界強度

$$\mathbf{E}_l = \frac{0.2 \times 10^{-6}}{2\pi(10^{-9}/36\pi)r} \mathbf{a}_r = \frac{3.6 \times 10^3}{r} \mathbf{a}_r$$

$z = 2$ で, $y < -1$ での \mathbf{E}_l の方向は $\mathbf{a}_r \rightarrow \mathbf{a}_y$ となっていますから, $\mathbf{E}_l = \mathbf{E}_s$ は具体的に

$$\frac{3.6 \times 10^3}{r} (-\mathbf{a}_y) = 900\pi \mathbf{a}_y$$

となり, r は,

$$r = \frac{3.6 \times 10^3 (-\mathbf{a}_y)}{900\pi \mathbf{a}_y} = -1.273$$

となります. 線電荷から -1.273 の距離での電界が, 面電荷によるものと大きさが等しく, 方向が逆になるということであり, 線電荷は $y = -1$ の位置ですから座標の値としては $y = -2.273$ となり, 答えは $(x, -2.273, 2.0)$ となります.

2.46 $\rho_l = 3.30 \text{ nC/m}$ の一様な線電荷が $x = 3 \text{ m}$, $y = 4 \text{ m}$ にある. 点電荷 Q は原点から 2 m 離れている. 原点での電界がゼロになるような電荷 Q とその位置を求めよ.

[解] 問題の図を図 2.14 に示します.

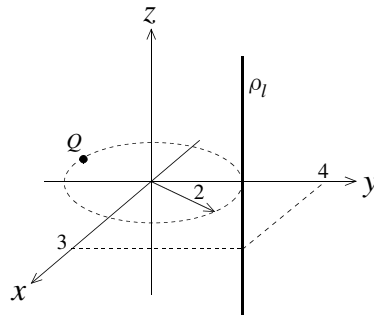


図 2.14 問題 2.46 の図

この線電荷が原点につくる電界を求めるために図 2.14 を $+z$ 方向から見た図を図 2.15 に示します.

ベクトル \mathbf{R} と単位ベクトルは, 図 2.15 より,

$$\mathbf{R} = -x\mathbf{a}_x - y\mathbf{a}_y = -3\mathbf{a}_x - 4\mathbf{a}_y$$

$$R = |\mathbf{R}| = \sqrt{3^2 + 4^2} = 5$$

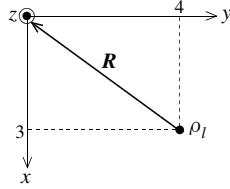


図 2.15 問題 2.46 の +z 方向からの図

$$\mathbf{a}_R = \frac{-3\mathbf{a}_x - 4\mathbf{a}_y}{5}$$

となり，線電荷による電界は，

$$\mathbf{E}_l = \frac{\rho_l}{2\pi\epsilon_0 r} \mathbf{a}_r = \frac{3.3 \times 10^{-9}}{2\pi(10^{-9}/36\pi)5} \left(\frac{-3\mathbf{a}_x - 4\mathbf{a}_y}{5} \right) = 11.88 \left(\frac{-3\mathbf{a}_x - 4\mathbf{a}_y}{5} \right)$$

と求まります．この \mathbf{E}_l に対して，原点での電界をゼロにするためには，点電荷が大きさが同じで逆方向の電界 \mathbf{E}_Q をつくればよい．

すなわち，

$$\mathbf{E}_Q = 11.88 \left(\frac{3\mathbf{a}_x + 4\mathbf{a}_y}{5} \right)$$

であり，大きさに着目すれば，

$$|\mathbf{E}_Q| = \frac{Q}{4\pi\epsilon_0(2)^2} = 11.88$$

より

$$Q = \frac{11.88 \times 4}{9 \times 10^9} = 5.28 \times 10^{-9} = 5.28 \text{ [nC]}$$

と点電荷の電荷量が求まります．そして，距離が $r = 2$ で位置は \mathbf{E}_Q と逆方向ですから

$$2 \left(\frac{-3\mathbf{a}_x - 4\mathbf{a}_y}{5} \right) = 2(-0.6\mathbf{a}_x - 0.8\mathbf{a}_y) = -1.2\mathbf{a}_x - 1.6\mathbf{a}_y$$

となり，点電荷 Q の位置は， $(-1.2, -1.6, 0)$ となります．

2.50 密度 $\rho_s = 2x(x^2 + y^2 + 4)^{3/2}$ (C/m²) の有限なシート電荷が， $z = 0$ 平面の $0 \leq x \leq 2$ m, $0 \leq y \leq 2$ m の範囲にある． $(0, 0, 2)$ m での \mathbf{E} を求めよ．

[解] 問題の図を図 2.16 に示します．図より，ベクトル \mathbf{R} や単位ベクトルは，

$$\mathbf{R} = -x\mathbf{a}_x - y\mathbf{a}_y + z\mathbf{a}_z = -x\mathbf{a}_x - y\mathbf{a}_y + 2\mathbf{a}_z$$

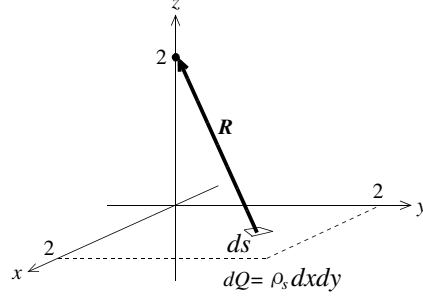


図 2.16 問題 2.50 の図

$$R = |\mathbf{R}| = \sqrt{x^2 + y^2 + z^2} = \sqrt{x^2 + y^2 + 4}$$

$$\mathbf{a}_R = \frac{-x\mathbf{a}_x - y\mathbf{a}_y + 2\mathbf{a}_z}{\sqrt{x^2 + y^2 + 4}}$$

となります。そして、微分電荷 dQ による微分電界 $d\mathbf{E}$ は、

$$\begin{aligned} d\mathbf{E} &= \frac{dQ}{4\pi\epsilon_0 R^2} \mathbf{a}_R = \frac{2x(x^2 + y^2 + 4)^{3/2} dx dy}{4\pi\epsilon_0 (x^2 + y^2 + 4)} \left(\frac{-x\mathbf{a}_x - y\mathbf{a}_y + 2\mathbf{a}_z}{\sqrt{x^2 + y^2 + 4}} \right) \\ &= \frac{x dx dy}{2\pi\epsilon_0} (-x\mathbf{a}_x - y\mathbf{a}_y + 2\mathbf{a}_z) \\ &= (18 \times 10^9) x dx dy (-x\mathbf{a}_x - y\mathbf{a}_y + 2\mathbf{a}_z) \\ &= (18 \times 10^9) (-x^2 dx dy \mathbf{a}_x - xy dx dy \mathbf{a}_y + 2x dx dy \mathbf{a}_z) \end{aligned}$$

となります。電界 \mathbf{E} は積分により

$$\begin{aligned} \mathbf{E} &= (18 \times 10^9) \left(-\int_0^2 \int_0^2 x^2 dx dy \mathbf{a}_x - \int_0^2 \int_0^2 xy dx dy \mathbf{a}_y + 2 \int_0^2 \int_0^2 x dx dy \mathbf{a}_z \right) \\ &= (18 \times 10^9) \left(-\int_0^2 x^2 dx \int_0^2 dy \mathbf{a}_x - \int_0^2 x dx \int_0^2 y dy \mathbf{a}_y + 2 \int_0^2 x dx \int_0^2 dy \mathbf{a}_z \right) \\ &= (18 \times 10^9) \left(-\left[\frac{x^3}{3} \right]_0^2 \left[y \right]_0^2 \mathbf{a}_x - \left[\frac{x^2}{2} \right]_0^2 \left[\frac{y^2}{2} \right]_0^2 \mathbf{a}_y + 2 \left[\frac{x^2}{2} \right]_0^2 \left[y \right]_0^2 \mathbf{a}_z \right) \\ &= (18 \times 10^9) \left(-\frac{16}{3} \mathbf{a}_x - 4 \mathbf{a}_y + 8 \mathbf{a}_z \right) \end{aligned}$$